

クルアーンを読んだことがある人には分かりますが、クルアーンは私的、公的事柄の例外なく彼を叱責します。ムハンマド様を、彼の家庭問題においても忠告したように、司令官としての決定のいくつかの誤り、人々への伝教のやり方についてまでも誤りを指摘するのです。たとえば、預言者と盲目の人物のストーリーを参照してみてください。(眉をひそめるもの章、1-11節)

自分自身の栄誉や地位を高めることを望む人物が、このような形で自らの誤りを歴史に記録し広めるでしょうか。

ムスリムたちの神聖な啓典クルアーンについて語る際、頭に浮かぶ至極当然の質問があります。この物語に関するムスリムの伝承を我々が受容しなくてはいけないのはなぜか？ムスリムでない人も、この事に関して質問を投げかける権利があるのではないかと。

クルアーンが、西暦600年頃マッカで誕生した、アブドラーの息子ムハンマド様という、アラビア語を母語とする読み書きのできないアラブ人によって伝えられたことに歴史家たちは相違していません。クルアーンのなかには、クルアーンがアッラーの許から到来し、ムハンマド様の役目は人々に内容を増やすことも減らすこともせずに伝えることである、という表現がたくさんあります。さて、これは真実なのでしょうか？

イスラームの使徒ムハンマド様が自分自身で創作した可能性はあるのでしょうか？

クルアーンを読んだり勉強したりしたことがなく、イスラームの使徒ムハンマド様の伝記、物語について知らない人なら、真っ先に頭に浮かぶ当然の疑問です。

多くの人にとっては周知のことですが、多数の著作家たち思想家たちは、他の人たちの業績を盗用し自分たちの成果であるかのように装うことがありました。では、なぜムハンマド様はこの啓典を彼による創作としなかったのでしょうか！ある人は言うかもしれません。それをアッラーに関連付けることで人々を欺くことを企んだのだと。

そうであれば、その書のなかの多くの箇所で、話し手がムハンマド様を直接叱責、指示し、誤りを訂正しているのはどういうことでしょうか？

## クルアーンはどこから 来たのか？



LAUNCHING  
**CURIOSITY**  
JUST SCAN IT!!



## 繰り返される批難:

驚くべきことに、ムハンマド様(彼に祝福と平安あれ)の物語と人生は、彼の真实性を裏付ける最も明白な証拠とみなすことができるものです。

彼は読み書きのできない文盲の男で、同様に読み書きのできない人々の間で生活してきました。醜行なものを除いては、彼らと生活を共にし、自分と家族の糧を得るために働き、代価を得る時には羊飼いの仕事、あるいは商人として働きました。学者たちとの交流はなく、そのように40年間生きてきた人物が、突然、人々も先祖の誰も知らなかった過去の人々の物語、創造の始まりの歴史、過去の諸預言者たちの生涯、生活のあらゆる領域に関わる詳細な法規に関して語り聞かせたのです。

この事実は、ムハンマド様の敵対者であった人々に衝撃を与えました。彼がもたらしたものについて、敵対者たちの反応には混乱があります。人々がムハンマド様を警戒するようにどのような濡れ衣を着せたのでしょうか？

時には過去の人たちから学び取ったのだと言い、時には彼自身が作り上げた嘘だと言いました。また、時には寝ているときに見た夢を語っているのだと言ったりもしました。その主張を証明することができず、魔術師、詩人、あるいは狂人であると言いつつ放ったのです。

## クラーンと知識

クラーンは、人々の生活を改善する全ての知識、理性と思考を働かせることへと呼びかけています。そして、その出所がなんであれ、過去の人々への盲従、真理を傲慢さから拒絶することを禁止しました。

## なぜクラーンは到来したのか？

クラーンは、さまざまな箇所ではアッラーの許から人々を導くためにもたらされたものであり、使徒であるムハンマドの役目はそれを人々に伝達することだと示しています。

## 決定的な歴史的真相:

公平な真実の探求者は、しばらく熟考することを疎かにはしません。イスラームの使徒ムハンマド様(祝福と平安あれ)はアラブ人ではありませんでしたか？

アラブ人は、自分たちの雄弁さと弁舌に長けていることを誇っていたことを歴史は伝えています。彼らの創作物といえば、詩や文学作品くらいでした。そのために集会や会合が催され、詩によって部族の地位は上がり、あるいはその詩集のなかで悪く言われた部族は地位が下がるのでした。

歴史書や文学書が私たちに伝えるのは、詩でも散文でも誰かが言ったことには、それについて必ず批評、修正、反論されるものであるということです。これが彼らの競合であり、力を誇示し優越を示すものでした。



## 永遠に続く挑戦

アッラーは全人類に同様のものか、あるいは一部でももたらしてみよと挑戦しました。

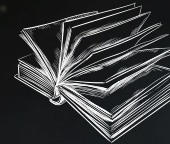
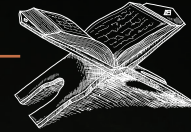
## 歴史の修正

クラーンは、過去の啓典にあるいくつかの歪曲された情報を修正し、いくつかの欠けていた物語を補完し、隠蔽されていた知識を明らかにするためにもたらされました。

一体どのようにして、彼に対する戦いのための努力を惜しまず、警戒するよう呼び掛けていた最大の敵対者たちにクラーンと同じようなもの、あるいは一部でももたらしてみよと挑戦したのでしょうか。しかし、敵対者たちはその挑戦に対抗できず、ただただ沈黙、逃避するしかなかったのです。(雌牛章23節参照)

ムハンマド様はこの挑戦を恐れなかったのでしょうか! 彼らの特に秀でていた能力、知識に関わることで挑発し、挑戦を受けて立つ個人または集団が競い合うことで論破され、虚偽であると証明されることを恐れなかったのでしょうか。

では、ムハンマド様が大胆な行動をとったのは、人々の能力を熟知していたからなのだ、と私たちは仮定してみましょう。では、どのようにして、その後の時代から復活の日まで、たとえ人々が



一致団結したとしても、クラーンと同様のもの、あるいはその一部ももたらすことができないと断言することができたのでしょうか。

(夜の旅章88節参照)

## 各自の最終的な結論:

クラーンに対する評価、判断を下す前に各自がクラーンを読み、学び、熟考することです。アラブ人でない場合、適切な翻訳を選ぶことが大切です。

ムハンマド様の預言者としての真实性を示す最大の証拠は、クラーンを読誦し意味を熟考した後に、私たちの心と理性が到達する結論にあるとクラーンにあります。クラーンは言います:

「(使徒よ、あなたの正直さの証明は、)われらがあなたに、彼らに対して読誦される啓典(クラーン)を下したことだけで、彼らには十分だったのではないか? 実にはその中にはまさしく、信仰する民にとっての慈悲と教訓がある。」(蜘蛛章51節)

クラーンを読むこと、熟考、熟慮することへの呼びかけは万人に向けられていて、それを拒否するのは、心と理性が閉ざされているからだと言います。

「一体、彼らは、クラーンを熟慮しないのか? いや、心に錠がかけられているのだ。」(ムハンマド章24節)

一番よく売れている、と言われる本を度々読んだことがあるでしょう。では、最もよく読まれ、少年も含め多くの人々に暗記されている本も読んでみませんか。

